

1 農業総産出額及び生産農業所得（全国推計）

(1) 農業総産出額は、近年、米、野菜、肉用牛等における需要に応じた生産の取組が進められてきたことを主たる要因として9兆円前後で推移してきた。

令和3年は、畜産の産出額が3.4兆円を超えて過去最高となった一方で、主食用米や野菜等の価格が低下したこと等から、前年に比べて989億円減少し、8兆8,380億円（対前年増減率1.1%減少）となった。

(2) 生産農業所得は、近年、農業総産出額の動向を受け、3兆円台を超えて推移してきた。

令和3年は、主食用米の価格が低下した一方で、畜産や果実の産出額が増加したこと等により、前年に比べて45億円増加し、3兆3,478億円（同0.1%増加）となった。

図1 農業総産出額及び生産農業所得の推移

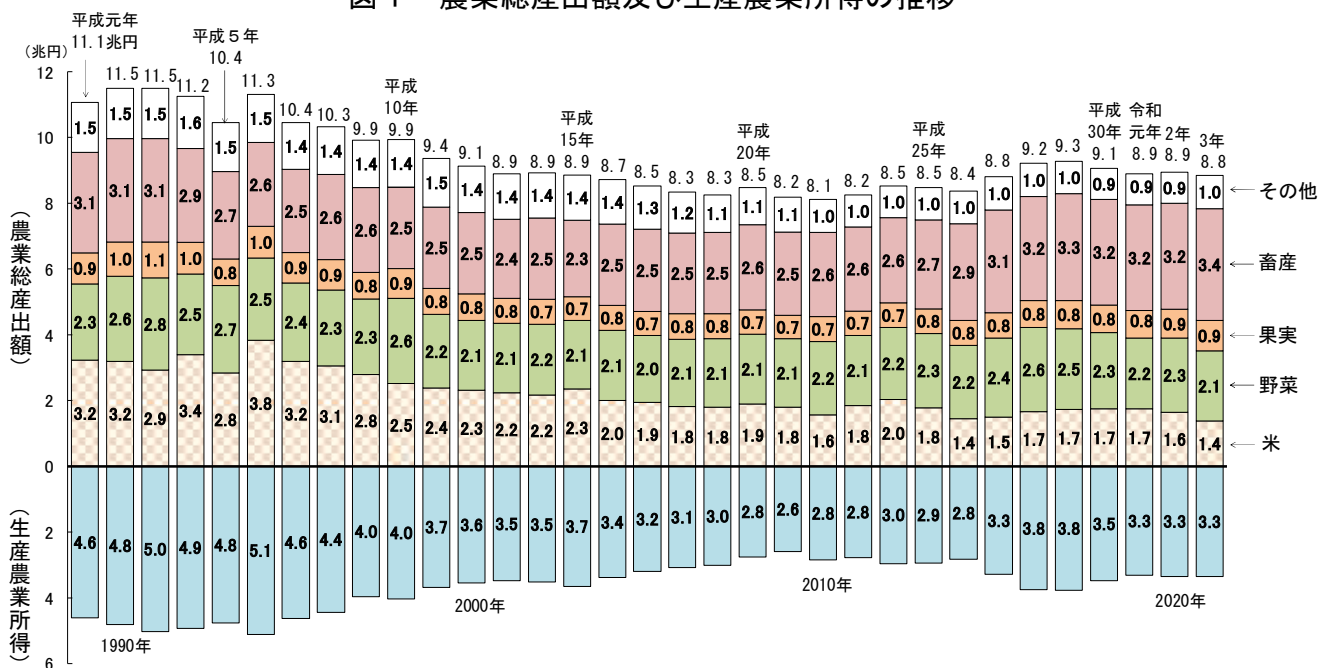
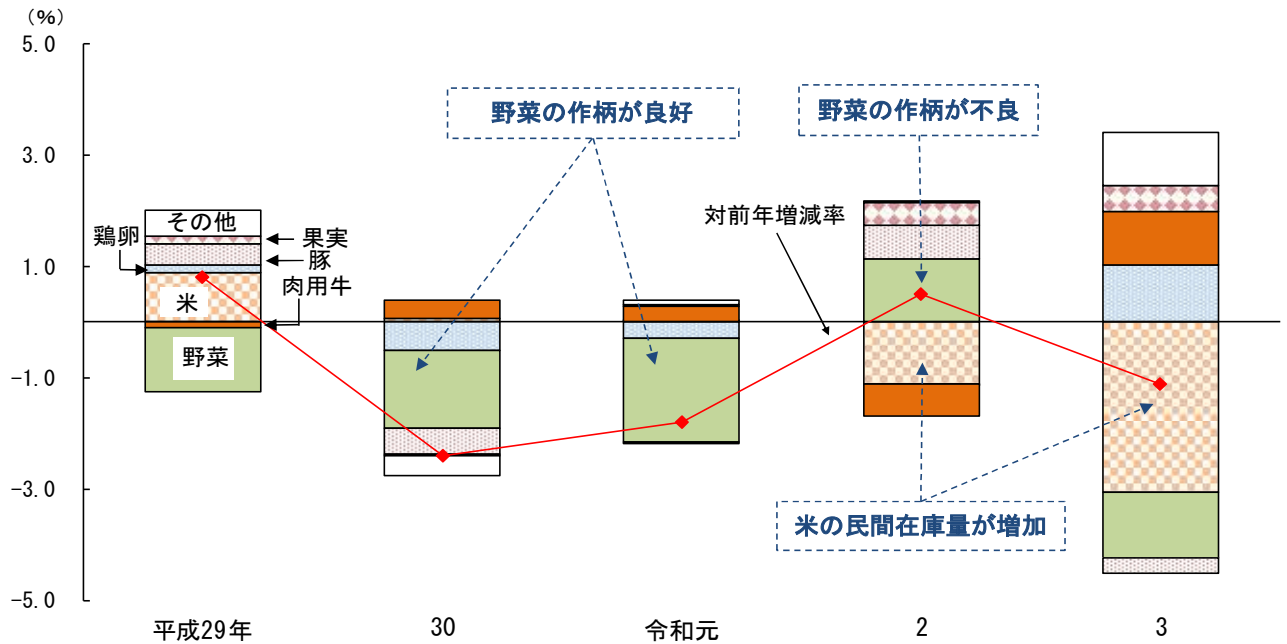


図2 農業総産出額の対前年増減率と部門別寄与度の推移



【関連データ】

主要農産物の輸出額の推移

区分	平成28年	29	30	令和元	2	3	対前年増減率	
							2/元	3/2
	億円	億円	億円	億円	億円	億円	%	%
農林水産物 計	7,502	8,071	9,068	9,121	9,256	11,626	1.5	25.6
農産物 計	4,593	4,966	5,661	5,878	6,552	8,041	11.5	22.7
うち 米	27	32	38	46	53	59	15.0	11.6
野菜	108	101	105	110	122	130	10.4	6.6
うち かんしょ	9	10	14	17	21	23	21.7	13.1
果実	269	266	318	335	323	440	△ 3.5	36.1
切花	7	9	9	9	8	13	△ 8.3	65.7
植木等	80	126	120	93	106	69	13.6	△ 34.3
緑茶	116	144	153	146	162	204	10.6	26.1
牛乳	9	10	11	14	18	18	28.9	△ 0.6
牛肉	136	192	247	297	289	537	△ 2.7	85.9
豚肉	9	10	10	11	18	20	55.0	14.5
鶏肉	17	20	20	19	21	13	6.3	△ 37.2
鳥卵・卵黄	10	13	17	24	47	60	98.7	28.1

資料：農林水産省輸出・国際局「農林水産物輸出入概況」

注：1 金額は、FOB価格（Free on board、運賃・保険料を含まない価格）である。

2 対前年増減率は、原数値（千円単位）で算出した数値である。

3 米には援助米を含まない。また、野菜・果実には調製品、牛乳には部分脱脂乳、牛肉・豚肉・鶏肉にはくず肉を含む。

4 植木等とは、植木類、盆栽類及び鉢物類である。

【統計結果】

(3) 部門・品目別

ア 米

近年、主食用米の需要の減少が加速化する中で、主食用米からそれ以外の作物への転換等、産地・生産者が中心となった需要に応じた米生産の定着に向けた取組が進められてきたこと等から、平成28年以降、米の産出額は1兆7,000億円前後で推移してきた。

令和3年は、前年に比べ2,732億円減少し、1兆3,699億円（対前年増減率16.6%減少）となった。

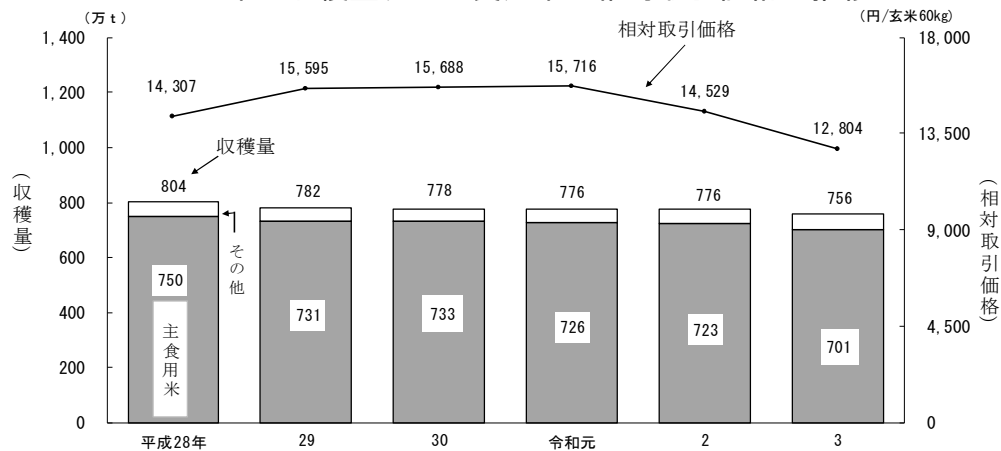
これは、毎年10万トン程度需要量が減少する中で、作付面積の削減により生産量が減少したものの、民間在庫量が比較的高い水準で推移したことから、主食用米の取引価格が低下したこと等による。

表1 米の産出額の推移

区分	単位	平成28年	29	30	令和元	2	3
実額	億円	16,549	17,357	17,416	17,426	16,431	13,699
対前年増減率	%	10.4	4.9	0.3	0.1	△5.7	△16.6

【関連データ】

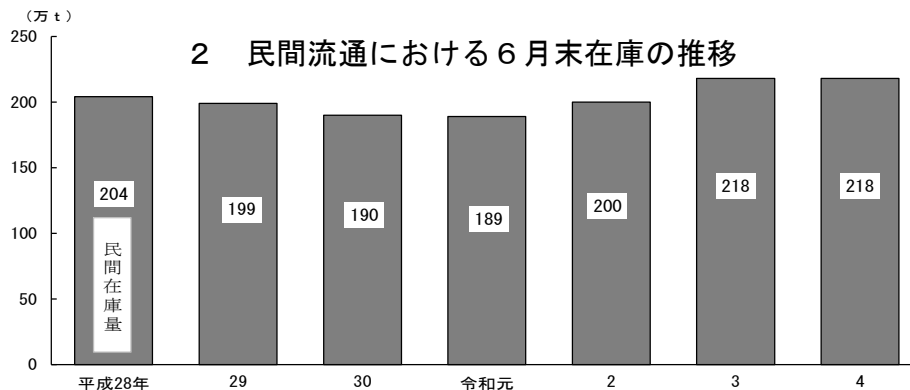
1 米の収穫量及び主食用米の相対取引価格の推移



資料：農林水産省統計部「作物統計調査」及び農林水産省農産局「米穀の取引に関する報告」（米の相対取引価格・数量）

注：1 相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月までの通年平均価格である。

2 収穫量の「その他」は、備蓄米、加工用米、新規需要米等である。



資料：農林水産省調べ

注：1 「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（令和4年10月）」からの数値である。

2 うるち玄米及びもち玄米を合算した値である。

イ いも類

ばれいしょ及びかんしょの作付面積が減少傾向で推移する中、ばれいしょにおいてポテトチップスやサラダ用等の加工食品向けに国産品を求める実需者ニーズが高まってきたことや、かんしょにおいて焼き芋としての需要が堅調なことにより、平成30年以降、いも類の産出額は増加傾向で推移してきた。

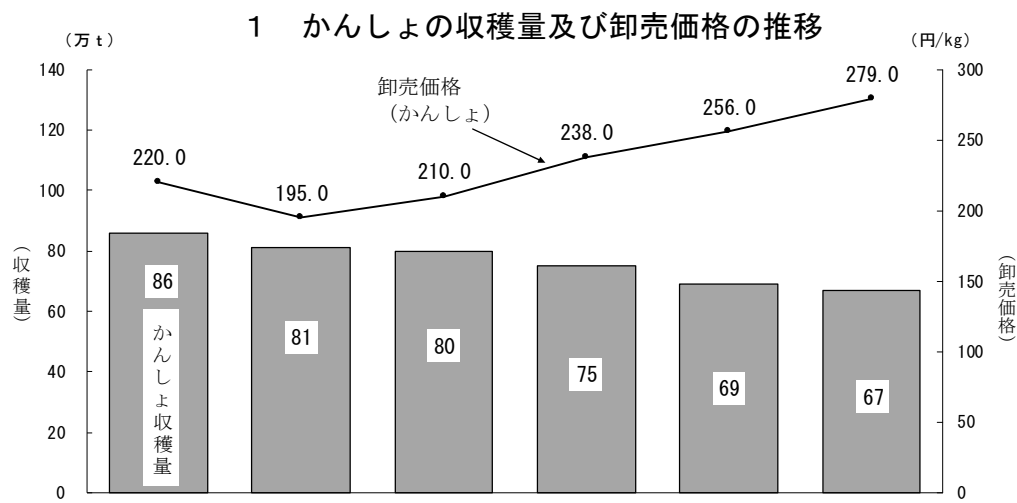
令和3年は、前年に比べ12億円減少し、2,358億円（同0.5%減少）となった。

これは、かんしょにおいて引き続き堅調な消費を背景に価格は高水準で推移したものの、ばれいしょにおいて関東地方を中心に価格が低下したことから、概ね前年並みとなったものと考えられる。

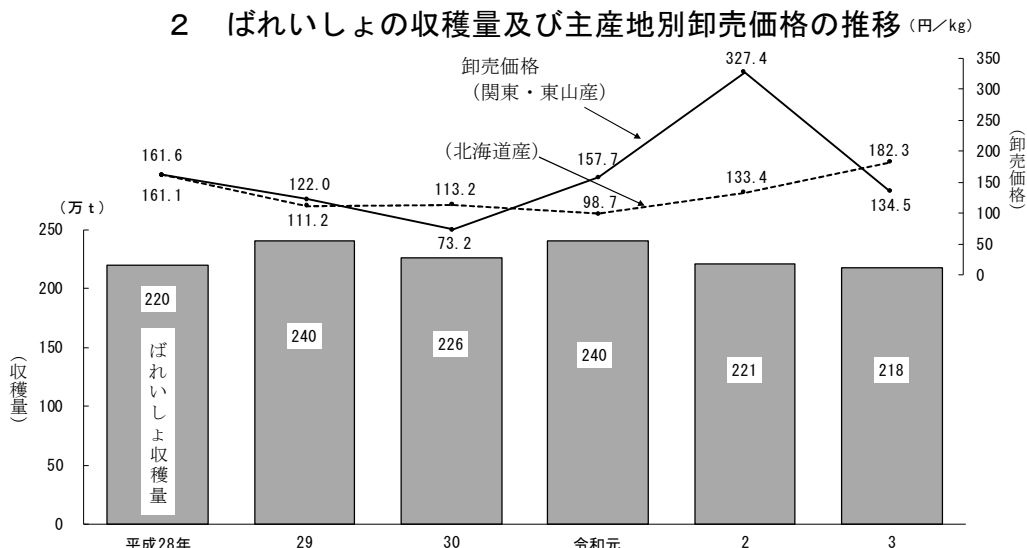
表2 いも類の産出額の推移

区分	単位	平成28年	29	30	令和元	2	3
実額	億円	2,372	2,102	1,955	1,992	2,370	2,358
対前年増減率	%	4.9	△11.4	△7.0	1.9	19.0	△0.5

【関連データ】



資料：農林水産省統計部「作物統計調査」及び「青果物卸売市場調査」



資料：農林水産省統計部「作物統計調査」及び「青果物卸売市場調査報告（産地別）」

注：卸売価格は、出回り時期（4月～11月）で集計した値である。また、関東・東山産は、作物統計調査で公表されている県（茨城県、千葉県及び長野県）を集計した値である。

ウ 野菜類

近年、加工・業務用への国産野菜を求める実需者ニーズやカット野菜等の簡便化志向の消費者ニーズの高まりがある一方で、天候により作柄や供給量等が変動しやすい特性もあり、平成30年以降、野菜の産出額は2兆2,000億円前後で推移してきた。

令和3年は、前年に比べ1,056億円減少し、2兆1,463億円（同4.7%減少）となった。

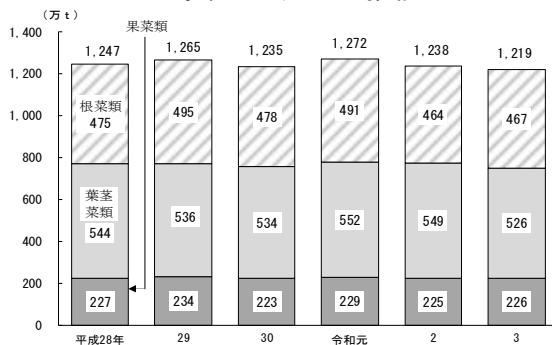
これは、北海道における夏季の干ばつの影響によりたまねぎの出荷量が減少し、価格が上昇した一方で、秋季から冬季にかけての高温等により多くの品目の出荷量が増加し、前年よりも安値となったこと等が影響したものと考えられる。

表3 野菜の産出額の推移

区分	単位	平成28年	29	30	令和元	2	3
実額	億円	25,567	24,508	23,212	21,515	22,519	21,463
対前年増減率	%	6.9	△4.1	△5.3	△7.3	4.7	△4.7

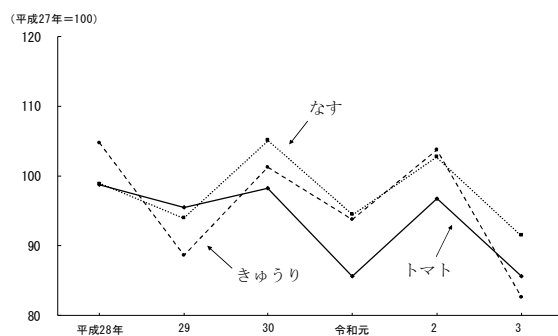
【関連データ】

1 野菜の生産量の推移



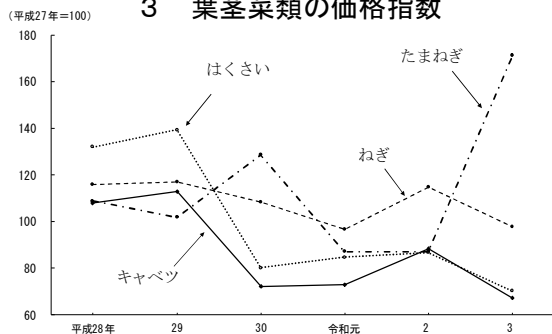
資料：農林水産省統計部「作物統計」
注：ここでいう野菜は、根菜類、葉茎菜類、果菜類である。

2 果菜類の価格指数



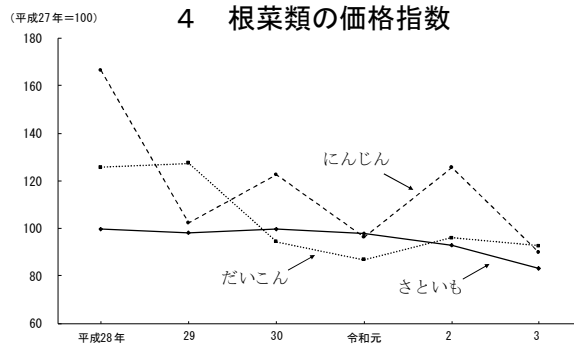
資料：農林水産省で作成
注：「農業物価統計調査」の結果を「作物統計調査」（農林水産省統計部）の年産区分（前年12月～11月）で再集計した結果である。

3 葉茎菜類の価格指数



資料：農林水産省で作成
注：「農業物価統計調査」の結果を「作物統計調査」の年産区分（4月～翌年3月）で再集計した結果である。

4 根菜類の価格指数



資料：農林水産省で作成
注：「農業物価統計調査」の結果を「作物統計調査」の年産区分（4月～翌年3月）で再集計した結果である。

エ 果実

農業従事者の高齢化や離農により、みかん等の栽培面積が減少傾向で推移する中、ぶどうを中心に簡便化志向等の消費者ニーズに対応した優良品目・品種への転換等による高品質果実の生産による堅調な価格推移の結果として、近年、果実の産出額は増加傾向で推移してきた。

令和3年は、前年に比べ418億円増加し、9,159億円（同4.8%増加）となった。

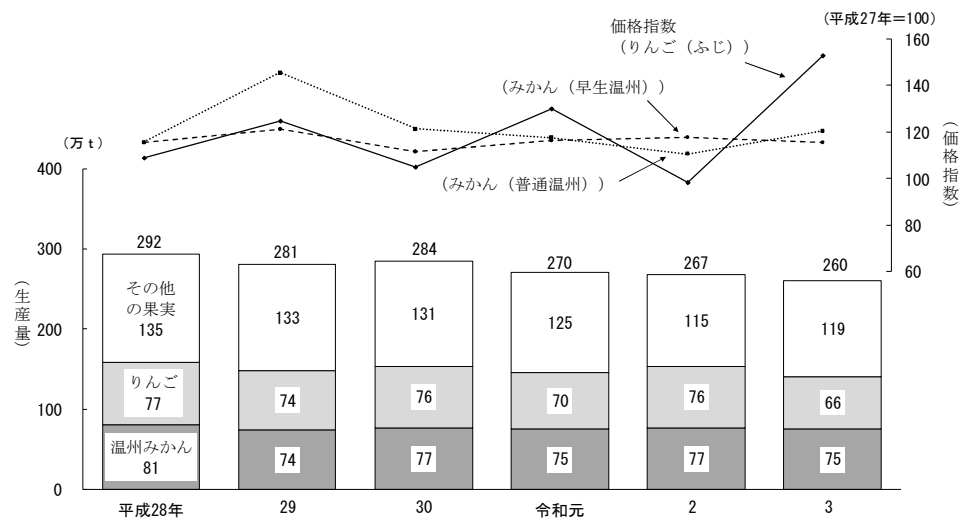
これは、主としてりんごにおける春先の凍霜害による被害、夏の高湿乾燥による小玉傾向や、みかんにおける隔年結果の影響等により、生産量が減少し価格が上昇したこと、ぶどう等において比較的高価格で取引される優良品種への転換が進んだこと等が寄与したものと考えられる。

表4 果実の産出額の推移

区分	単位	平成28年	29	30	令和元	2	3
実額	億円	8,333	8,450	8,406	8,399	8,741	9,159
対前年増減率	%	6.3	1.4	△0.5	△0.1	4.1	4.8

【関連データ】

1 果実の生産量並びにみかん及びりんごの価格指数の推移

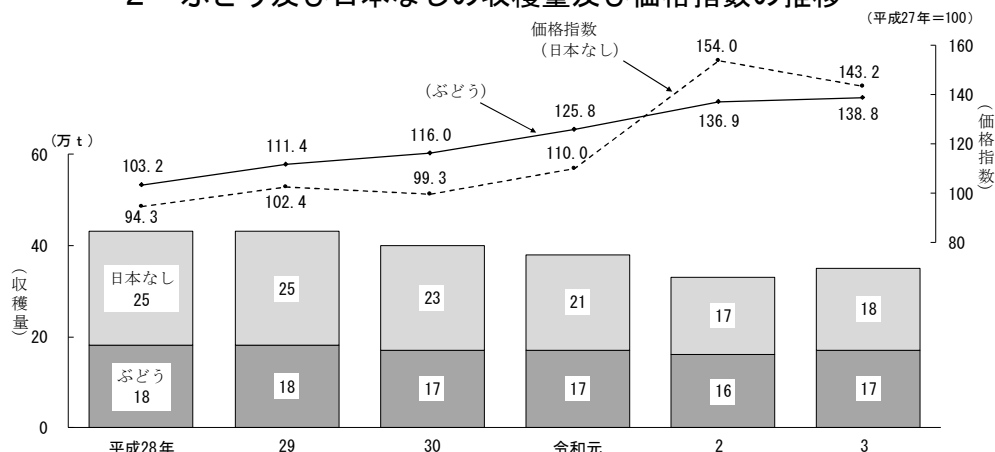


資料：農林水産省政策課「食料需給表」及び農林水産省統計部「農作物価統計調査」

注：1 生産量は年度の数値であり、令和3年の生産量は概算値である。

2 みかん及びりんごの各指数は、「農作物価統計調査」（農林水産省統計部）の結果を主な出荷期間（8月～翌年7月）で再集計した結果である。

2 ぶどう及び日本なしの収穫量及び価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「作物統計調査」及び「農作物価統計調査」

オ 花き

近年、国内外での需要に応じた品目・品種、仕立てへの対応等により切り枝等の産出額が増加してきたものの、栽培面積の長期的な減少傾向を受けて花き産出額は減少傾向で推移してきており、特に令和2年は新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ感染症」という。）拡大の影響を大きく受けて減少した。

令和3年は、前年に比べ226億円増加し、3,306億円（同7.3%増加）となった。

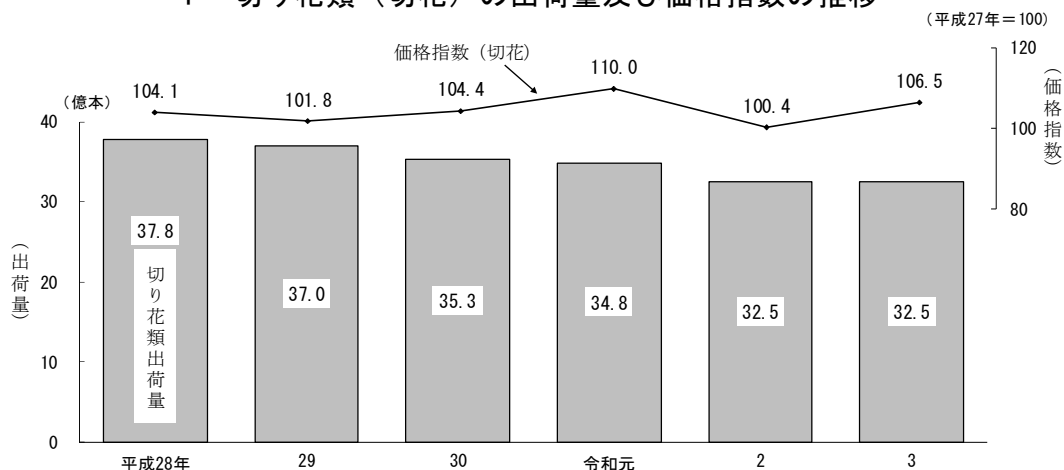
これは、花き出荷量はコロナ感染症拡大の影響を受けた前年並みとなったものの、イベント需要の減少等により3月から6月に価格が低下していた前年に比べて、需要が回復し価格が上昇したこと等が寄与したものと考えられる。

表5 花きの産出額の推移

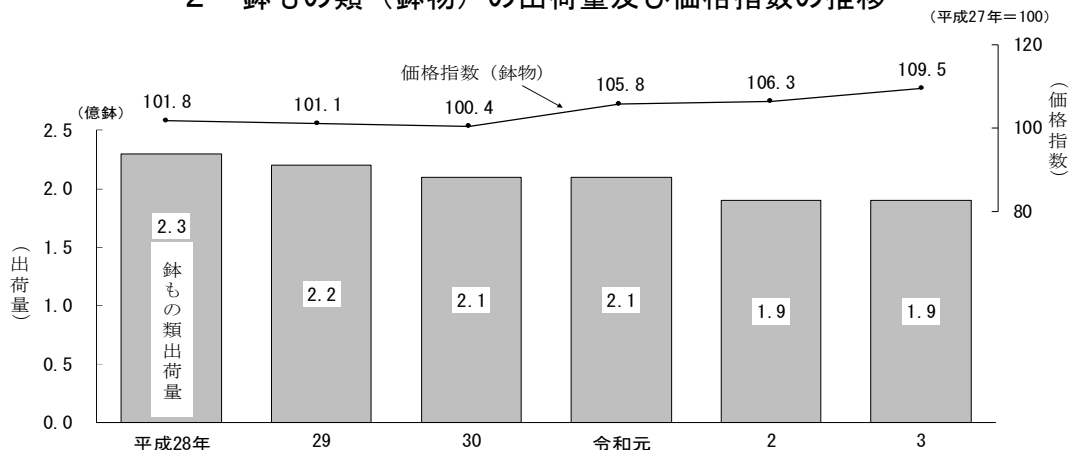
区分	単位	平成28年	29	30	令和元	2	3
実額	億円	3,529	3,438	3,327	3,264	3,080	3,306
対前年増減率	%	0.0	△2.6	△3.2	△1.9	△5.6	7.3

【関連データ】

1 切り花類（切花）の出荷量及び価格指数の推移



2 鉢ものの類（鉢物）の出荷量及び価格指数の推移



カ 茶

国内ではリーフ茶の長期的な需要の減少を背景に栽培面積が減少傾向で推移する中、ペットボトル緑茶飲料の家計消費が増加傾向にあることや、海外での日本食ブームや健康志向の高まりにより茶の輸出は年々増加し、特にてん茶（抹茶の原料）の生産量も増加傾向で推移してきたものの、令和2年はコロナ感染症拡大の影響を大きく受けて産出額は減少した。

令和3年は、前年に比べ86億円増加し、495億円（同21.0%増加）となった。

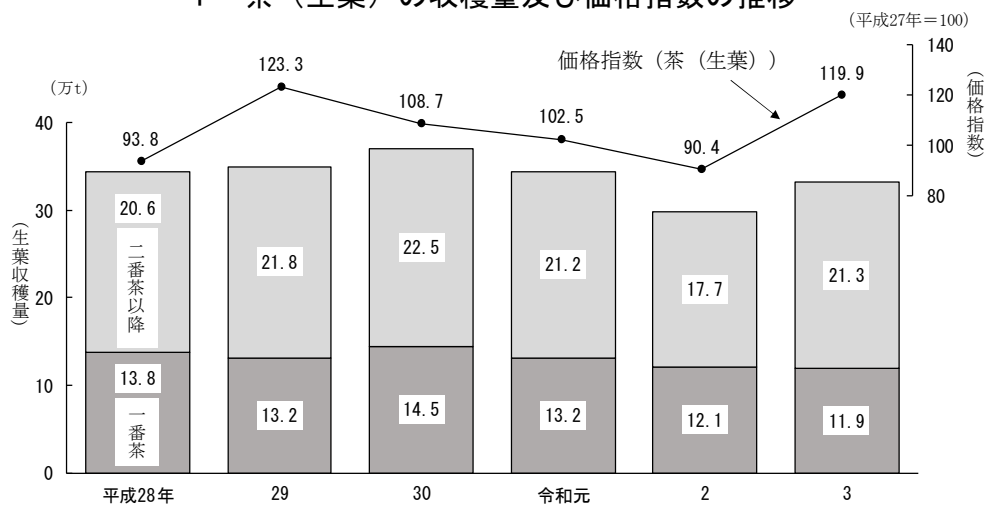
これは、春先の低温等の影響により一番茶の生産量が減少した一方で、コロナ感染症拡大の影響を受けた前年からドリンク向けを中心に二番茶以降の生産が回復したことに加えて、価格も上昇したこと等が寄与したものと考えられる。

表6 茶の産出額の推移

区分	単位	平成28年	29	30	令和元	2	3
実額	億円	612	647	615	522	409	495
対前年増減率	%	7.6	5.7	△4.9	△15.1	△21.6	21.0

【関連データ】

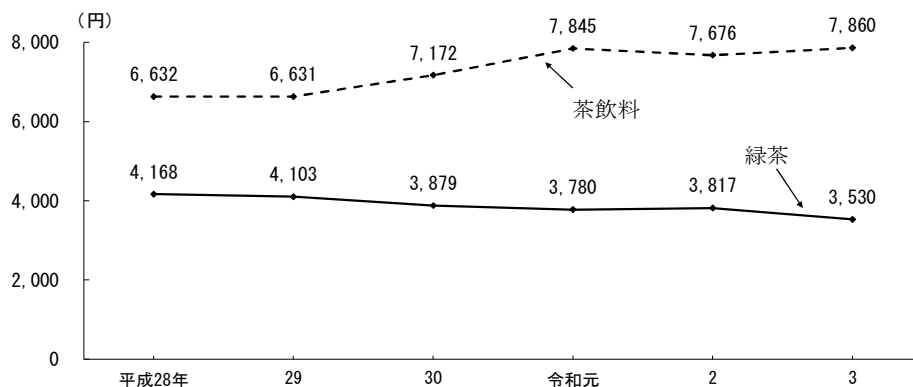
1 茶（生葉）の収穫量及び価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「作物統計調査」及び「農作物価統計調査」

注：生葉収穫量は、8府県（埼玉県、静岡県、三重県、京都府、福岡県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県）を対象に再集計したものである。

2 緑茶及び茶飲料の1世帯当たり年間の支出金額の推移



資料：総務省統計局「家計調査」（家計収支編）（二人以上の世帯）

注：緑茶は茶葉のみ。茶飲料は液体の緑茶の他、ウーロン茶、紅茶及び麦茶を含む。

キ 肉用牛

近年、和牛改良の進展や飼養管理技術の向上等により高品質な牛肉の割合が増加してきたことや、生産基盤の強化が推進される中、牛肉の輸出も年々増加してきており、平成24年以降、肉用牛の産出額は増加傾向で推移してきた。

令和3年は、前年に比べ847億円増加し、8,232億円（同11.5%増加）となった。

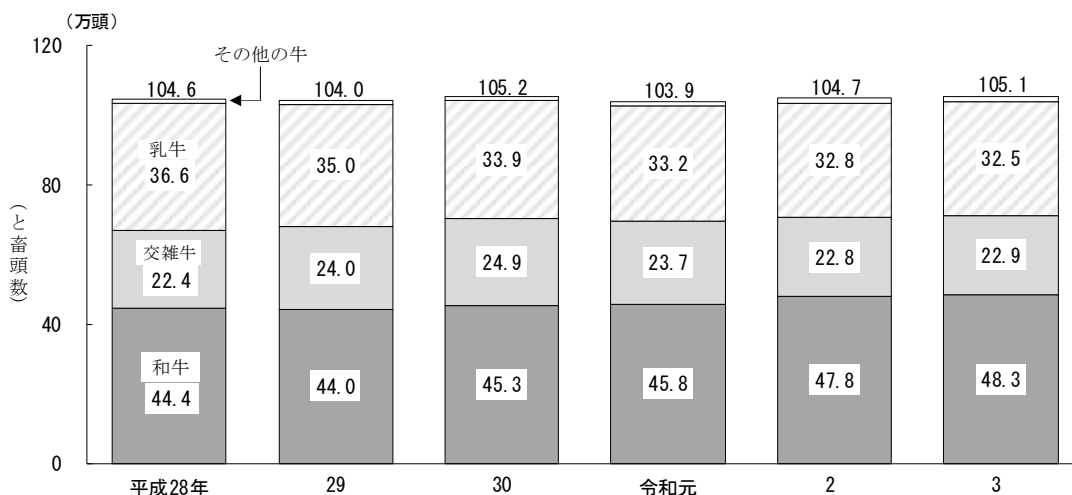
これは、生産基盤の強化に伴い、引き続き和牛の生産頭数が増加したことや、コロナ感染症拡大の影響を受けた前年から需要が回復し、価格が上昇したこと等が寄与したものと考えられる。

表7 肉用牛の産出額の推移

区分	単位	平成28年	29	30	令和元	2	3
実額	億円	7,391	7,312	7,619	7,880	7,385	8,232
対前年増減率	%	7.3	△1.1	4.2	3.4	△6.3	11.5

【関連データ】

1 肉用牛のと畜頭数の推移

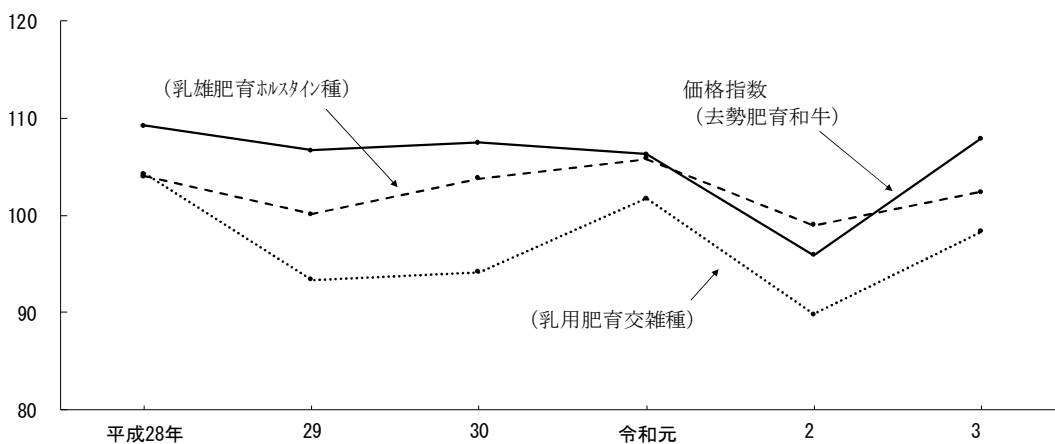


資料：農林水産省統計部「畜産物流通調査（と畜場統計調査）」

注：と畜頭数は、成牛の数値である。

2 肉用牛の価格指数の推移

(平成27年=100)



資料：農林水産省統計部「農業物価統計調査」

ク 生乳

近年、健康機能が広く消費者に理解された牛乳、はっ酵乳及びチーズの消費量が増加傾向にあること等から総合乳価が上昇傾向にあることや、生産基盤の強化が推進されてきたことから、平成26年以降、生乳の産出額は増加傾向で推移してきた。

令和3年は、前年に比べ64億円増加し、7,861億円（同0.8%増加）となった。

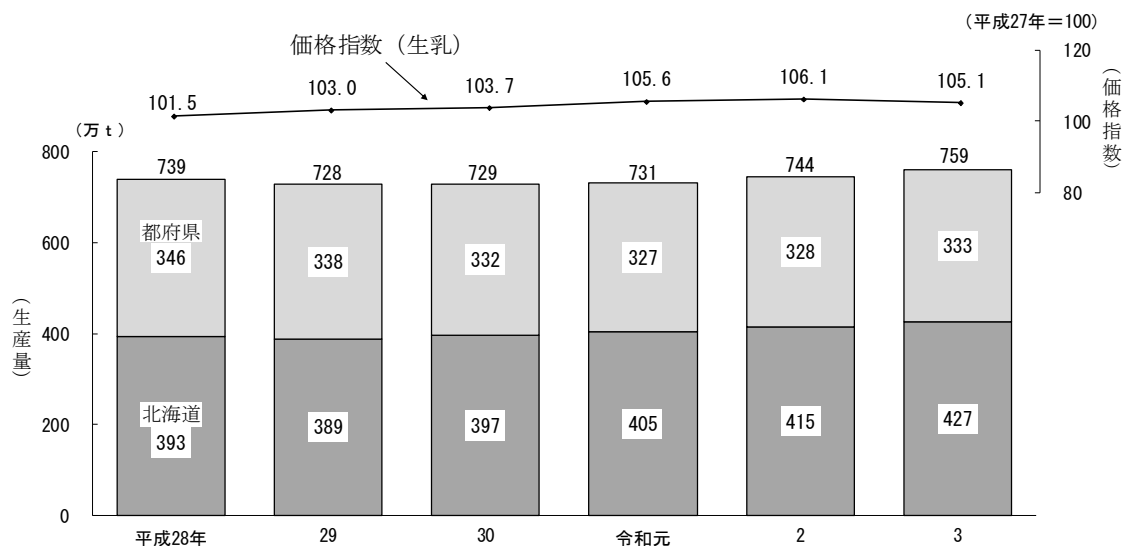
これは、生産基盤強化対策の進展を背景に生乳生産量が増加したこと等が寄与したものと考えられる。

表8 生乳の産出額の推移

区分	単位	平成28年	29	30	令和元	2	3
実額	億円	7,391	7,402	7,474	7,628	7,797	7,861
対前年増減率	%	1.1	0.1	1.0	2.1	2.2	0.8

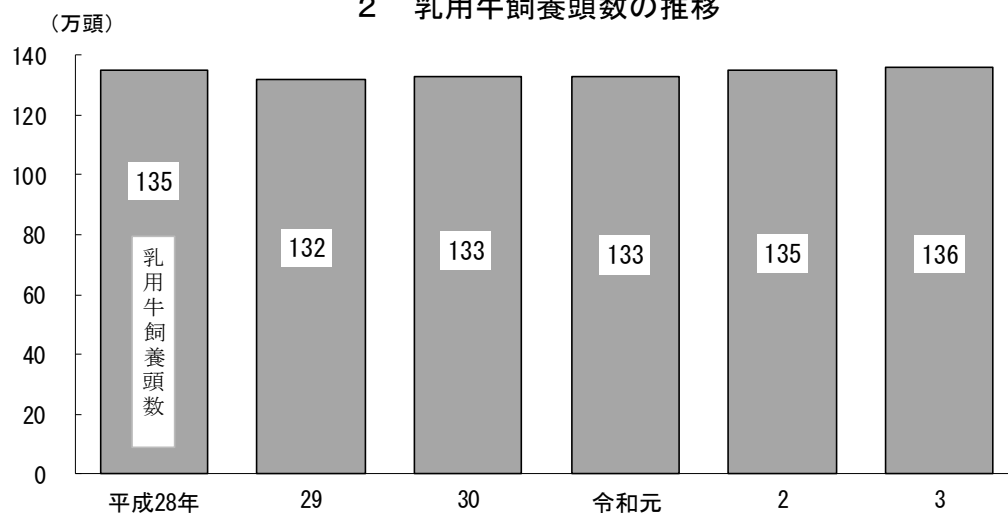
【関連データ】

1 生乳の生産量及び価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「牛乳乳製品統計調査」及び「農業物価統計調査」

2 乳用牛飼養頭数の推移



資料：農林水産省統計部「畜産統計調査」

ケ 豚

全国で蔓延したPED（豚流行性下痢）の影響等により一時的に減少していた豚の出荷頭数は、大規模化の進展を背景に出荷頭数が増加に転じるとともに、伸びる家計消費を背景に豚肉価格も安定して推移してきており、平成26年以降、豚の産出額は6,000億円を超えて推移してきた。

令和3年は、前年に比べ259億円減少し、6,360億円（同3.9%減少）となった。

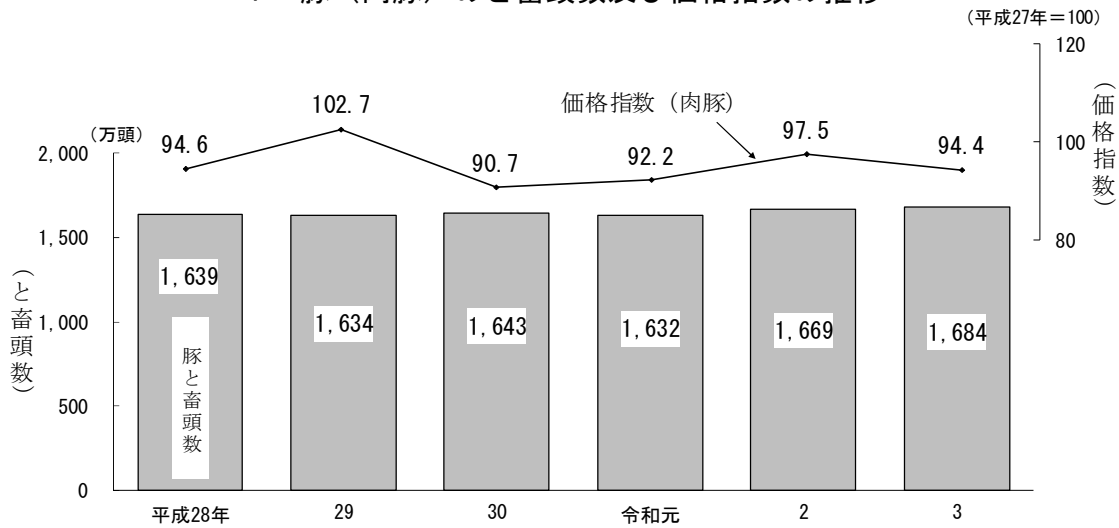
これは、大規模化の進展により生産頭数は増加したものの、コロナ感染症拡大による旺盛な巣ごもり需要により価格が高く推移した前年を下回ったこと等が影響したものと考えられる。

表9 豚の産出額の推移

区分	単位	平成28年	29	30	令和元	2	3
実額	億円	6,122	6,494	6,062	6,064	6,619	6,360
対前年増減率	%	△1.5	6.1	△6.7	0.0	9.2	△3.9

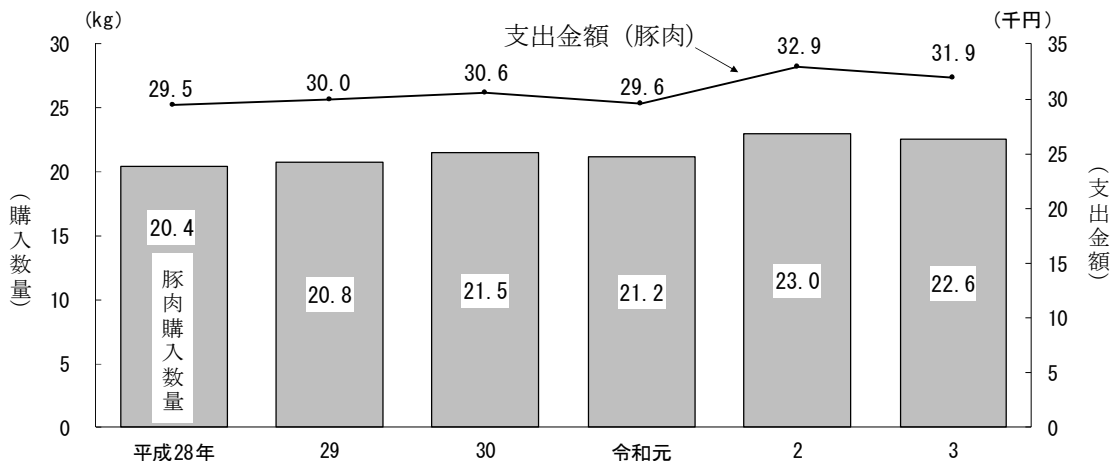
【関連データ】

1 豚（肉豚）のと畜頭数及び価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「畜産物流通調査（と畜場統計調査）」及び「農作物価統計調査」

2 豚肉の1世帯当たり年間の購入数量及び支出金額の推移



資料：総務省統計局「家計調査」（家計収支編）（二人以上の世帯）

コ 鶏卵

近年、他の食品に比べて相対的に割安感があること等から、鶏卵の消費量が増加傾向にある中で、経営の大規模化の進展に伴い生産量が拡大し、特に平成29年以降は毎年260万トンを超える生産量で推移しており、平成26年以降、鶏卵の産出額は5,000億円前後で推移してきた。

令和3年は、前年に比べ924億円増加し、5,470億円（同20.3%増加）となった。

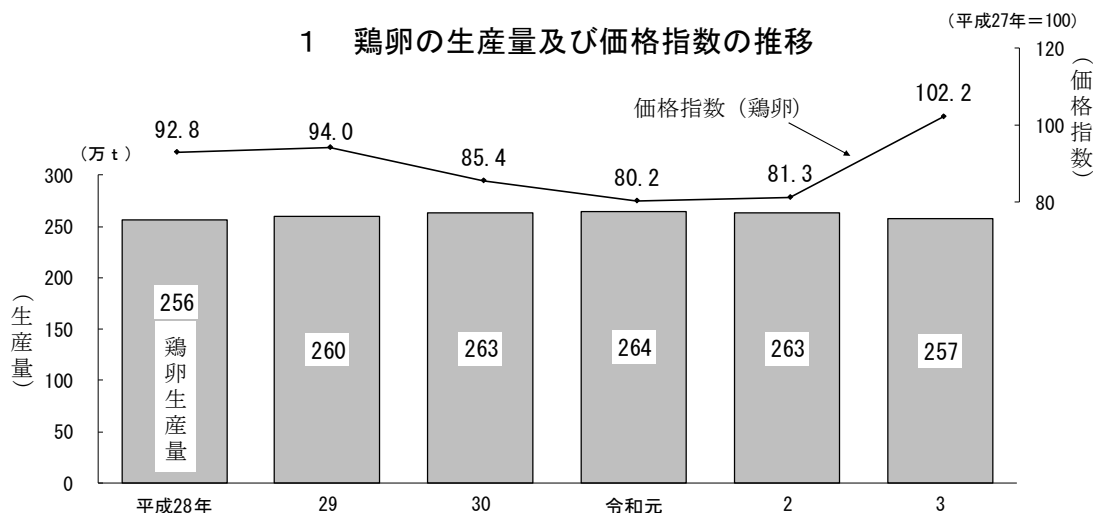
これは、令和2年11月から令和3年3月にかけて大規模発生した鳥インフルエンザの影響により、生産量が減少したことに加えて、引き続き巣ごもり需要もあり価格が上昇したこと等が寄与したものと考えられる。

表10 鶏卵の産出額の推移

区分	単位	平成28年	29	30	令和元	2	3
実額	億円	5,148	5,278	4,812	4,549	4,546	5,470
対前年増減率	%	△5.8	2.5	△8.8	△5.5	△0.1	20.3

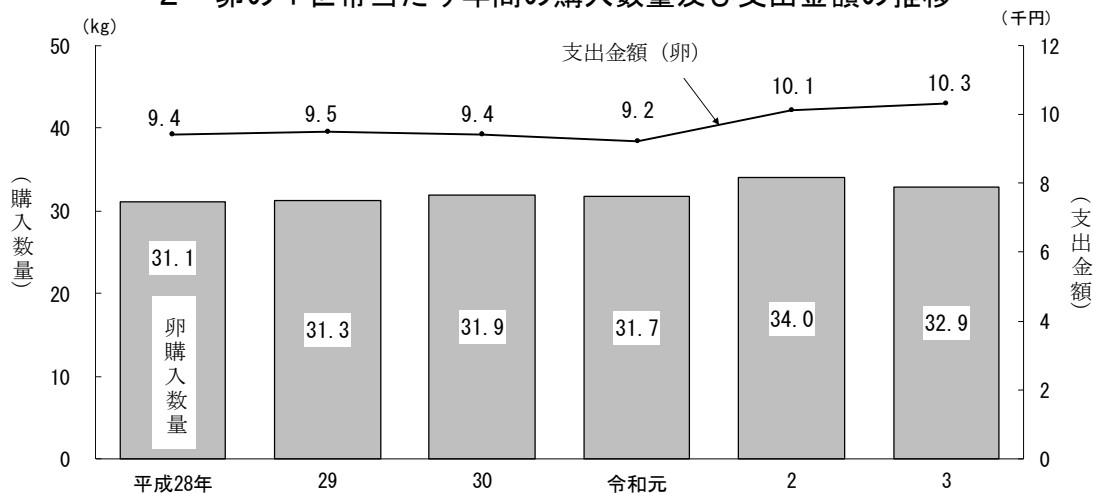
【関連データ】

1 鶏卵の生産量及び価格指数の推移



資料：農林水産省統計部「畜産物流通調査（鶏卵流通統計調査）」及び「農業物価統計調査」

2 卵の1世帯当たり年間の購入数量及び支出金額の推移



資料：総務省統計局「家計調査」（家計収支編）（二人以上の世帯）

注：卵は、鳥類の卵。加工品、缶詰、瓶詰及び破卵も含む。

サ ブロイラー

近年、消費者の低価格志向や根強い国産志向等により、鶏肉の家計消費量が年々増加するとともに、健康志向と簡便性を求める消費者ニーズに対応したむね肉の加工品（サラダチキン）等の需要が堅調であることから、平成25年以降、ブロイラーの産出額は3,000億円を超えて推移してきた。

令和3年は、前年に比べ119億円増加し、3,740億円（同3.3%増加）となった。

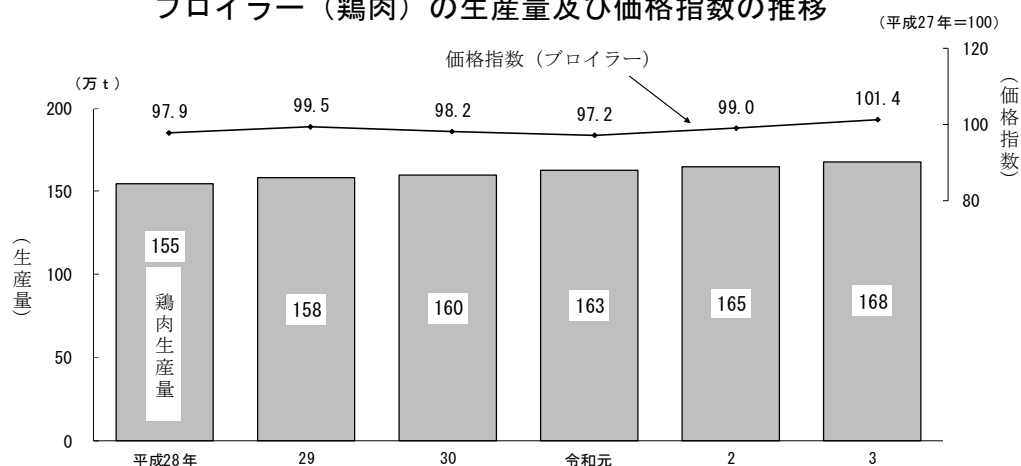
これは、ブロイラーの国内生産量が過去最高を更新し、堅調な鶏肉需要を背景に価格も上昇したこと等が寄与したものと考えられる。

表11 ブロイラーの産出額の推移

区分	単位	平成28年	29	30	令和元	2	3
実額	億円	3,441	3,578	3,608	3,510	3,621	3,740
対前年増減率	%	0.8	4.0	0.8	△2.7	3.2	3.3

【関連データ】

ブロイラー（鶏肉）の生産量及び価格指数の推移



資料：農林水産省政策課「食料需給表」及び農林水産省統計部「農作物価統計調査」

注：生産量は年度の数値であり、令和3年は概算値である。

(4) 生産農業所得

生産農業所得は、近年、農業総産出額の動向を受け、3兆円を超えて推移してきた。

令和3年は、前年に比べ45億円増加し、3兆3,478億円（同0.1%増加）となった。

これは、主食用米の価格が低下した一方で、畜産や果実の産出額が増加したこと等が寄与したものと考えられる。

表12 生産農業所得の推移

区分	単位	平成28年	29	30	令和元	2	3
実額	億円	37,558	37,616	34,873	33,215	33,433	33,478
対前年増減率	%	14.2	0.2	△7.3	△4.8	0.7	0.1